

1. 調査報告概要表

作成日 2008年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1592100059
法人名	社会福祉法人 飛翔福祉会
事業所名	グループホームあんの
所在地 (電話番号)	新潟県 阿賀野市 山口 1685-1 (電話) 0250-62-9611
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成20年10月28日

【情報提供票より】(平成20年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造煉瓦造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 17,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	240 円	昼食 340 円
	夕食	280 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 960 円		

(4) 利用者の概要(平成19年12月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	水原郷病院・北蒲原歯科医師会・斉藤内科クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

阿賀野川や瓢湖からほど近い場所にある松平山を望む自然環境豊かな2ユニットのグループホームです。建物は和風の外観と木目を基調とした内装で、落ち着いた居心地のよい雰囲気になっています。利用者も職員もやらなければならないことを決めず、利用者のペースで職員が付き添ってケアがゆったりと行われているのが印象的です。また、意見を活発に出しながら管理者中心に職員が一丸となって運営が進められています。今回の課題は、現状をさらに一歩進めて、よりクオリティーアップしてもらいたいという期待も含まれたものとなっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となった・地域との交流・市役所との連携に関しては、職員で話し合いの上、改善に向けた取組みが行われています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価に関しては、職員に説明を行い、評価の意義を理解した上で、分担して自己評価が作られていました。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	事業所からの報告に加え、地域包括や老健相談員からの専門的な助言や地域住民からの行事の情報などをもらい、サービスの向上に活かされています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱の設置の他、日常的に家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りを行い、直接言ってもらえる関係が作られています。また、食事に関するアンケートの実施など、きめ細やかな対応が取られています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りの際に神楽に寄ってもらうことや、納涼祭はポスティングにて地域にお知らせし、地域の小学生を招待するなどの行事を通しての交流の他、日常的に個人とのつながりを持ち、畑で収穫したものを差し入れしてもらうなどの関係が作られています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の名前のもとにもなっている「あんしん・のどかみんなの我が家」という分かりやすく、短い中にしっかりと考えを入れた事業所の理念が職員で話し合いの上作られています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの目に付くところに掲示してあるとともに、理念の達成のための目標として、実現のために具体的に落とし込まれています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては契約時に説明し、地域に対しては行事の際の交流を通して事業所の取り組みや大切にしていることを理解してもらう取り組みが行われています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りの際に神楽に寄ってもらうことや、納涼祭はポスティングにて地域にお知らせし、地域の小学生を招待するなどの行事を通しての交流の他、日常的に個人とのつながりを持ち、畑で収穫したものを差し入れしてもらうなどの関係が作られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回課題となった・地域との交流・市役所との連携に関しては、職員で話し合いの上、改善に向けた取り組みが行われています。また、今回の評価に関しては、職員に説明を行い、評価の意義を理解した上で、分担して自己評価が作られていました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告に加え、地域包括や老健相談員からの専門的な助言や地域住民からの行事の情報などをもらい、サービスの向上に活かされています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは頻繁に行き来があり、話し合いの場が持たれているとともに、地域のグループホームの空き情報をメールでやり取りするなどの情報交換も行われています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて、ケース検討を含め学ぶ機会を設け、職員への周知がされており、利用者の気持ちを尊重した支援が行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、手紙や広報誌を送り利用者の様子を伝えるとともに、直接利用者や職員との接点を持てるよう、家族が事業所に来所する機会をつくり働きかけが行われています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置の他、日常的に家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りを行い、直接言ってもらえる関係が作られています。また、食事に関するアンケートの実施など、きめ細やかな対応が取られています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、職員会議が行われ、時間が延長するほど白熱した議論が行われています。加えて申送りの際の意見や提案も運営に反映されています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで異動はなく、法人全体として配慮されています。また退職者や新入職員に関しても、日常的な情報共有によるチームケアや状況に応じた説明や紹介により、利用者へのダメージを防ぐ配慮が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	必要なマニュアルは一通り完備されていますが、見直しについては課題が残ります。		利用者や現場の状況に即したマニュアルとして活用されるよう、職員で協力し、定期的な見直しを期待します。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議やユニット会議を活用して、計画的な内部研修の実施、外部研修参加者からの伝達研修などが行われています。シフトの都合などで外部研修へ思うように参加できない点が課題となっています。		参加すべき研修の優先順位付けや他事業所との合同研修や見学など、外部研修以外の育成の機会を検討されることを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで交流が行われ、3ヶ月に1度の管理者での交流と年に2回の職員による交流が行われています。		今の取組みを一步進めて、合同の研修会や相互見学などを行って職員を育てる仕組みに発展させられることを期待します。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間の確保や、職員会議での意見交換、地域の同業者との交流など、さまざまな形で職員のストレス軽減に向けた取組みが行われています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の見学や面談に加え、利用開始間もない時期は家族に宿泊してもらうことや、終末は帰宅の機会を設けるなどして、徐々にホームでの生活に馴染めるよう配慮がされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「勤務時間はホームの住民」という意識を持ち、やらなければならないことを決めず、利用者寄り添うことに重点が置かれています。また、調理や畑仕事を利用者から教わるなど、利用者から学び、支えあう関係が構築されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の心身の状況を把握した上で、家族と事業所の役割分担を明確にし、家族に協力を求めています。また、電話連絡を頻繁に行い、家族が事業所へ来所してもらえるよう働きかけが行われています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報を記録し、情報の蓄積と職員間で共有が行われています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や本人が答えられない場合は家族などから、利用開始前に情報を収集し、ある程度の把握を行った上で、日常の会話の中から得た情報は個人のファイルに蓄積がされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望を踏まえホームでの生活に慣れるための暫定プランを作成し、実際にケアを行った上で、ユニット会議にて職員の意見を踏まえてプランの修正・決定が行われています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員の日常の記録をもとに、月に1回、居室担当がモニタリングを行ったものを踏まえ、3ヶ月に1回見直しが行われています。また、状態変化による随時の変更も行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体機能維持のための利用者ごとの支援や、家族の都合に応じた受診同行など、小規模ならではの個々の状況に応じた支援が行われています。また、行事などは隣接するケアハウスとの連携によるメリットが活かされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医での受診を基本とし、家族を介して口頭や書面、医師への電話連絡などにより情報交換が行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実際の終末期対応はこれまでにありませんが、契約時に事業所としての方針の説明と家族の意向の把握が行われています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	規定に基づいた個人情報の取扱いや羞恥心に配慮した対応など、職員会議にて周知徹底は図られています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者も職員も何をすると決めて、職員が利用者に合わせた支援が行われています。また、晩酌など個々に応じた対応が行われています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や状態に応じて準備や片付けを職員とともにすることや、嗜好調査を実施し、1週間ごとに交代で職員がメニュー作りをしています。また、畑から収穫したものや差し入れなどを取り入れた食事が提供されています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックによる排泄パターンや仕草を職員間で共有し、トイレ誘導が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日と入浴時間は決められていますが、体調や希望に応じて柔軟な対応がとられています。また、入浴拒否に対しては、無理強いをせず、タイミングや声かけの方法を職員で連携して対応がとられています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を踏まえ、利用者それぞれの得意なことを見つけ、料理・掃除・洗濯などの家事仕事や、絵・書道などの趣味、畑仕事などの役割、楽しみごと、気晴らしの支援が行われています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	少人数での日常的な散歩や買い物に加え、定期的に外食や花見などのイベントを企画し、あまり外出をしがらない人も戸外に出るよう支援が行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の場などを活用し、介護保険法における身体拘束や、利用者の行動を制限しないケアについての話し合いが行われています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動パターンの把握と見守りにより、日中は鍵をかけないケアが実践されています。また、隣接のケアハウスと連携し、外出している利用者がいれば内線で連絡がくようになっていきます。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒアリング報告書を活用し、ユニット会議にて再発防止策が検討されています。また、利用者個々の注意点の話し合いも行われ、注意すべき場所や時間帯の把握が行われています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署より高齢者の事故や疾病に関する勉強会が行われましたが、救命救急講習の受講はまだされていません。		消防署に協力を依頼し、救命救急講習の全職員の受講に向けた取組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回の避難訓練の実施や隣接のケアハウスとの災害時の協力体制の確立が行われています。		現在の取組みを一歩進めて、地域の消防団などに協力を依頼し、地域との災害時の協力体制を確立することを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行い、水分量確保のための飲み物の変更が行われています。栄養管理に関しては、献立作りの際、隣接ケアハウスの栄養士が作ったメニューが参考にされていますが、定期的な栄養チェックは行われていません。		隣接ケアハウスの栄養士の協力を得て、専門的な観点から定期的な栄養チェックを行うことを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に木目を基調とした温かみのある空間となっています。利用者の作品などが程よく装飾され、居心地よく生活できるスペースとなっています。また、利用者の意見を反映して扉の開閉音を防ぐよう、防音用シールを貼るといった決め細やかな配慮が行われています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が「自宅の部屋」のように過ごせるよう、プライバシーに対する配慮や、使い慣れた物を持ち込んでもらうよう働きかけ、居心地よく過ごせる工夫が行われています。		